

良い年の  
新たな  
幕開けに



## 人生を変えた「劇王」

文化の家館長 萩山勝人

文化の家の創立当初から関わってこられた萩山勝人さんが館長に就任されました。特に思い入れのある企画が「劇王」。その成り立ちと熱い思いを文章に寄せていただきました。

「長久手演劇王国」、このネーミングが生まれたのは20年以上前のことでした。人口3万5千人ほどの小さな町に、ホールや練習室、憩いの場などを併設した複合施設長久手町文化の家（当時）が誕生しました。1998年の夏でした。開館と同時に様々な自主事業が計画されました。

### 演劇王国とは？

その中に「演劇事業」がありそのひとつに、長久手演劇王国があります。「長久手演劇の王国にする？」そのような大きな野望ではなく、東海地域で活動している劇団を一つ一つ招へいし、公演を行うつもり企画でした。

はじめに登場したのは、3大都市で精力的に公演をしていた会話劇の雄、はせひろいちさん率いる「劇団ジャブジャブサーキット」。2年目は、不条理劇で評価が高い佃典彦さん主宰の「劇団B級遊撃隊」。

「3年目は？」と考えてい

たときに、はせひろいちさんから「東海圏に約3000の劇団（当時）があり、俳優、劇作家、演出家など多くの演劇人が活動している。作品発表の場が限られ、紹介の場があればいいのだが……。」と相談があり、ならば、演劇人の人材発掘と紹介を兼ね、より多くの劇団、劇作家の作品が長久手で観劇できる企画にと転換をしました。

その成果の現れとして、長久手演劇王国第3弾では、7作品に9劇団が参加し、劇作家によるシンポジウムも行われました。

### 「劇王」と命名

そして、4回目の演劇王国公演を終え、佃典彦さん（劇作家協会東海支部長・当時）から「ただ演劇を観るだけでなく観客による投票制にしたら、演劇の見方が変わり面白いのでは……。」と相談があり、またまた企画転換。

劇作家が短編戯曲を競い、勝ち負けを決める「ジュニアライト級チャンピオンタイ

トルマッチ劇王」が誕生しました。因みにジュニアは短編、ライトは書く（戯曲）を表し、演劇のチャンピオンである劇王と命名したのでした。



チャンピオンベルトを掲げる館長

### 熱い戦い

#### 劇王天下統一大会

2013年には10回目を記念して劇王天下統一大会を催し、日本全国各地で生まれた劇王が集結し、長久手市文化の家が一大合戦場と化し、小牧長久手の合戦の地を彷彿とさせる熱い戦いが繰り広げられました。4年後には、韓国、香港、シンガポールからも参戦しての劇王アジア大会が開かれ、多文化に触れる演劇が話題を呼びました。

### 次回は来年2月

休戦状態であった劇王は2020年に再開し、テーマは次世代を意識した「世代交流は演劇で〜人生を変える20分」となりました。

2022年2月に開催される劇王では、文化の家講座枠で学生や一般の作家がチャレンジしたり、試演会で観客の意見を聞きブラッシュアップした作品を出品したりして第12代劇王に挑みます。

### 人生を豊かに

参加する俳優、劇作家はもちろんです。みなさんもそれを目撃する観客となって人生を豊かに変えてみませんか。私はと言うと初回からチャンピオンベルトのプレゼンターとして十分に人生が変わりました。そのプレゼンターもそろそろ世代交代せねばと考えております。

2022年は良い年の新たな幕開けになることを「縁劇」を通じて願っております。